

八十里越第9号トンネル（県境トンネル）貫通イベント

～時空を超えて つながる越後と会津～

国道289号の交通不能区間、新潟県三条市～福島県只見町間の八十里越（はちじゅうりごえ）。その県境をまたぐ国道289号八十里越9号トンネルの貫通式が平成22年11月7日（日）に現地で行われ、三条市長、只見町長をはじめ、国会議員、新潟・福島両県知事など約130人が参列して貫通を祝いました。

貫通式では、貫通の儀、通り初めの儀、樽御輿（たるみこし）入場、鏡開きなどが行われ、三条市からは下田中学校の生徒も参加し、貫通点での万歳や隣の只見中学校の生徒との握手交換などを行い、貫通を祝いつつ、将来に向けた早期開通を願いました。

【広がる交流】

八十里越の早期開通へ向けて、日増しに全線開通に寄せる関心と期待が強く、大きくなってきています。平成22年度は只見高校の生徒や関係者による国道289号全線踏破や只見町・三条市の小学生の交流会、また、工事現場見学なども積極的に行われました。

【工事概要】

八十里越は、本州を横断し太平洋と日本海を結ぶ国道289号のうち、三条市から只見町にかけての延長約19kmの峠越え区間で、昭和61年度に事業化、平成9年度から本線工事に着手しました。9号トンネルは、八十里越の14本のトンネルの中で最長の延長3,173m。平成14年度に新潟県側からの一方向で掘削を始め、約8年を費やして貫通しました。

【展望】

今後、沿線住民の皆様が待ち望んでいる全線開通には、まだまだ時間はかかりますが、数年後、9号トンネルは物理的に車の通行が可能となることから、観光における活用のほか、防災や緊急医療など、緊急時の活用などを国、県に要望していきます。

